

筑紫（九州）の万葉集と風景画シリーズ（第二十二回）

きしま

## 「杵島歌垣山」

〜日本三大歌垣山〜

佐賀県は玄界灘と有明海の二つの海に接している。県の南西部、有明海に面する佐賀県杵島郡白石町の西方に『杵島山』がそびえている。この山は数峰で形成されているが、その峰の一つ犬山岳（標高342m）の中腹に白石町が整備した「歌垣公園」がある。公園名の「歌垣」は古代に毎年春には豊作を祈願し、秋には収穫を感謝する農耕祭祀であるとともに、若者が互いに歌を読みあい、結婚相手を探す場であったと考えられている。万葉集にはこの歌垣公園―垂で歌われたと思われる次の歌がある。

あられ

きしま たけ

霰降り 吉志美が岳を さが

いも

しもと 草取りはなち 妹が手  
を取る

卷三―385 作者 未詳

（解説）

吉志美が岳は険しくて草にすがって登るけれど、うっかりその手を離したはずみに、滑ってしまいあわてて妹（恋人）の手を握ってしまった。

・この歌の題詞には『仙柘やまびめつ 枝みのえが歌三首』とある。この三首は卷三—385〜387となっているが、385の歌の左注には「右の—峠は、或いは『吉野の人味稻うましね、柘枝仙媛つみのえやまびめに与ふる歌』といふ。ただし、柘枝伝しやしでんを見るに、この歌あることなし。」とあり、上記三—385の—峠について。

中村行利著「万葉と九州」には

・この歌の由来は既に分からなくなっており左注にある吉野の人、味稻が仙女に贈ったものと記されているが柘枝伝説を内容とする小説『柘枝伝』を見てもこの歌はないというのである。「柘島曲きしまがうりがまぎれ込んだものであろう。或は同じ系統の民謡がその時々のお話の中に少し折りこまれたものと見た方がよいかもしいかなともいう。」との記述がある。

・この万葉集に歌われている歌とほぼ同じ形の歌が「肥前国風土記ひぜんのくにふどき」逸文にも見える。

柘島郡の条に、「郡家より南二里の所に平地に孤立した—つの山がある。南西の方角から北東にかけて、斜めに三つの峰が並んでいる。これを名づけて「柘島が岳」と呼んでいる。南西の山を比古神ひこかみ(白岩山しろいわ 高300m)、中央の山を比売神ひめかみ(犬山岳いぬやま 高342m)、北東の山を御子神みこがみ(勇猛山いみょう 高259m)という。

・歌垣は中央の山「犬山岳」に、近くの村人が毎年春と秋、酒を持ち琴を抱いて手をとって山に登り眺望し、酒を飲みつつ歌ったり踊ったりする。その時に歌われた次の歌がある。

あられふる 杵島が岳を 険しみと 草

きしま

だけ

さか

と  
採りかねて 妹が手を執る と

と歌われ、「杵島曲（きしまぶり）」と呼ばれているとある。

・「杵島曲」とは林田正男著『万葉の歌』では「どのようなものか明らかでないが、公式の歌曲として、所作を伴う形で演じられたものと思われる。」とし、また、万葉集と杵島曲の歌には若干の違いがあるが、その前後関係やこれらの歌の伝承等は不明であると記述している。

・歌の意は、「杵島山が険しいので、よじ登るのに草をつかみ得ないで、一齋に登る愛しい人の手をつかむよ、」というものである。

・この記事からは、「歌垣」は毎年春には豊作を祈願し、秋には収穫を感謝する農耕祭祀（さいし）であるとともに、若者が互いに歌を読みあい、結婚相手を探す場でもあったと考えられる。とある。

・「角川日本地名大辞典」には古代、この地域の若者たちが配偶者を求めて飲み、歌い、踊ったのは、杵島山のことであるか、正確な場所はわからないが、地名（「堤」は歌垣に用いた楽器の「鼓」の訛ったもの、など）などから杵島・犬山岳中腹の白石町大字堤と船野付近にある小高い岡（標高約200m）を中心とする一帯かと考えられている。この場所には昭和35年に白石町が中心となって「万葉集注釈」などの著者でもある万葉研

究家沢瀉久孝氏の筆による自然石の高さ約6メートルもある万葉歌碑が建てられた。

・また、この万葉集で歌われている「吉志美が岳」が、白石町にそびえる「杵島山(岳)」であることが肥前風土記逸文などから有力であるとする説が多い。

・この杵島山へ出るにはJR長崎本線・肥前白石駅下車(または佐世保線大町駅下車。)すると西に杵島山が平べったい山並みを見せている。駅から車で白石平野を西に向けて約3〜4キロ走ると古代、歌垣があったと伝えられる杵島山の一つの峯「犬山岳」(標高342m)の麓に着く、さらに約2キロに亘る緩やかな坂道を上がると駅から約10分ほどで犬山峰の中腹にある「歌垣山公園」に着く。この地は古代に歌垣が行われていた場所と伝えられ、現在確認されている大阪府の歌垣山(大阪府能勢町)及び茨城県の筑波山(つくば市)と並んでここ杵島山は「日本三大歌垣山」に数えられている。

また、歌垣山公園は白石町が花の公園として整備していることもあり、四季折々に観光客が訪れ、特に春にはサクラや7万本のツツジが咲き乱れ、シーズンにはたくさんの花見客が訪れているようである。

筆者が4月下旬に訪れた際はツツジが満開時で多くの観光客が訪れ、きれいな風景を楽しんでいた。

(写生地1)

杵島山のー岫、犬山岳の中腹にある歌垣公園の駐車場から北向かいに見える歌垣地跡と推定されている小高い岡とその周りに見事に咲きほこるツツジ園、背景に多久（白石町）の山々を描く。（杏花）

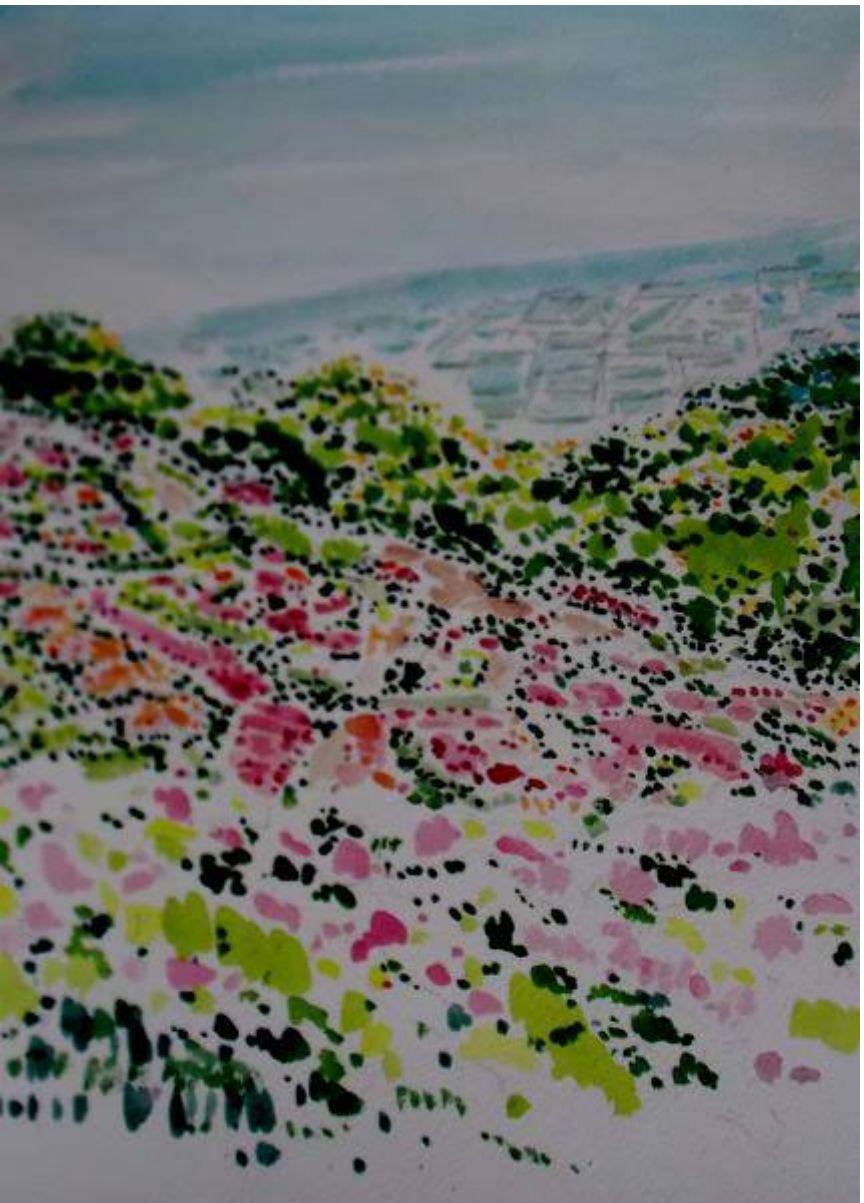




(参考文献) 新潮日本古典集成「万葉集」・林田正男著「万葉の歌」・角川日本地名大辞典等



・位置図



(写生地2) 歌垣地跡推定地の前から眼下に白石平野、それに続く約10 km離れた地にある有明海方面の壮大な風景を描く。(杏花)